



経 歴		Toshiya Yoshii
平成16年 4月	総務省採用	
	同 自治税務局固定資産税課	
平成16年 8月	岡山県企画振興部市町村課	
平成18年 1月	内閣官房行政改革推進事務局公務員制度改革推進室	
平成18年 7月	総務省消防庁国民保護・防災部防災課国民保護室	
平成19年 8月	同 自治財政局交付税課	
平成21年 4月	姫路市市長公室政策推進室長 兼 財政局財政担当参事	
平成23年 8月	地方公共団体金融機構経営企画部企画課調査役	
平成25年 1月	現職	

「官邸」から「役場」まで。

内閣総理大臣官邸 長谷川内閣総理大臣補佐官 秘書官 **吉井 俊弥**



経 歴		Rumiko Watanabe
平成16年 4月	総務省採用	
	同 人事・恩給局管理運用係	
平成17年 4月	同 大臣官房総務課	
平成18年 7月	同 自治行政局行政課分権法制推進室	
平成18年12月	同 行政評価局評価監視官(独法第一担当)付	
平成19年 7月	同 行政評価局評価監視調査官(独法第一担当)	
平成20年 4月	同 行政管理局主査	
平成22年 7月	同 行政評価局政策評価官室評価監視調査官	
	併任 内閣府公益認定等委員会事務局総務課	
平成23年 8月	米国留学(ペンシルバニア州立大学)	
平成25年 6月	総務省人事・恩給局参事官補佐(給与第三担当)	
平成26年 5月	現職	

人事行政の最前線

内閣官房内閣人事局参事官補佐(女性活躍促進・ダイバーシティ担当) **渡邊 瑠美子**

4度目の中東出張と市役所勤務

この原稿を、エジプトに向かう政府専用機の中で書いています。安倍総理大臣の外国訪問に同行するのは、今回で実に11回目となりました。今のポストに着任して以来、長谷川内閣総理大臣補佐官のもとで、安倍総理大臣がトップセールスを進めるために、日本から経済ミッションを同行するお手伝いをさせて頂いています。これから訪問するエジプト・ヨルダン・イスラエル・パレスチナにも、日本を代表する幅広い分野の会社のCEOに同行頂きます。当然ながら、安倍総理もいらっしゃる機内です。自然と、身体は緊張感を覚えます。これから始まる出張中の業務に備え、往路の機内では、お酒を飲まないことに決めています。無事に終われば、羽田に向かう帰りの機内では、少しビールを飲もうと思います。

5年前には、兵庫県の姫路市役所に勤務していました。毎朝、自転車に乗って、姫路城の脇を通過して市役所へ行くと、一階の各種窓口があるフロアには、赤ん坊を抱いたお母さんや市営のテニスコートの予約を狙う学生の集団、生活保護の相談コーナーに座る御老人などの姿がありました。帰り途中に、自分が予算査定に携わった事業の現場に寄り道することもしばしば。ありふれた生活の中に、自分の仕事がありました。

「国」での勤務と「地方」での勤務

総務省の門をくぐった11年前。先輩方の人間的なバランスの良さに惚れ、多様な経験をしたいと思って選んだ職場でしたが、私の決断は間違っていないかもしれません。

官邸での仕事や、総務省の自治財政局という部署で地方交付税制度と真剣に向き合った日々。「国」での勤務には、一国の制度を預かる緊張感が漲っていて、大きな制度改革を無事に終えたときには、言葉では言い表せない達成感があります。

岡山県庁、そして、姫路市役所。「地方」での勤務には、住民の生活を支える現実感が溢れていて、仕事の結果が自らの目の前で形として現

れる充実感があります。何より赴任した2つの土地は、私にとって、とても大切な場所になりました。

総務省に入り、国と地方での勤務を交互に繰り返す中で、自分でも驚くほどに、日本という国がどんどん身近になり、愛着が深まっていくことを感じます。

「役に立つ人」になれるように

公務員の仕事、総務省の仕事。みなさんの目にはどのように映っているのでしょうか。

大袈裟ではなく、今、日本の行政は、歴史的な大展開の時期を迎えています。社会が成熟し、人口は減少局面に。偉大な先人たちが苦勞の末に残してくれた諸制度は、軋んだ音を立て始めています。

歴史の法廷に堂々と立てるように、今、それらの制度を時代に合ったものに改革し、責任を持って将来に引き継ぐことが、私たち、現在の公務員に課された責務です。取り組むべき課題は、とてつもなく大きく、働く意欲を常に刺激し続けます。

公務員のことを「役人」とも呼びます。

すでに公務員という仕事に興味を持ってくださっている皆さんには、当たり前のことかもしれませんが、「人の役に立つ」ということを、自分の「職業」にできる。これって、とても贅沢で、素敵なことなんじゃないかって思うのです。

多くの人にとっての「役に立つ人」になれるよう、私も、日々、努力を続けています。志ある皆さんと出会い、一緒に働くことを、楽しみにしています。



ポルトガルのロカ岬にて長谷川補佐官と(筆者中央)

内閣人事局一期生として

平成26年5月30日、内閣官房に内閣人事局という組織が産声をあげました。内閣人事局は、幹部職員人事の一元管理や、国家公務員制度の企画立案等を行う組織です。私は、内閣人事局の看板が掛けられたその日から、総務省から出向することとなりました。

現在私は、女性国家公務員の活躍を促進するお役目を頂いています。女性の活躍推進は政府の最重要課題の1つであり、国家公務員についてもまずは「隼より始めよ」で、率先して女性の採用・登用の拡大に取り組んでいるところです。行政サービスの受け手は、おおよそ男女半々です。政策運営の担い手にも女性が増えれば、新たな発想による対応を可能とし、政策の質や行政サービスの向上につながるものと考えます。

とはいえ、一昔前まで、女性職員は本当に少数派でした。実際、私が入省して初めて配置された部屋では、紅一点でした。しかし現在は、内閣人事局の人事行政部門の部屋に総勢100名近くの職員がいますが、うち3割程度が女性であり、入省当初の私からすると想像を絶するくらい女子が多いです(笑)。私自身も、内閣人事局の女性職員を集めたランチ会の開催等を通じて、女性同士親睦を深めながら毎日楽しく仕事をしています。

このように女性職員が増えつつある中で、女性の活躍を後押しするために我々にできることは何か、日々思索しています。政府では、男女全ての職員の「働き方改革」等によるワークライフバランスの実現との両輪で取り組むべく、「国家公務員の女性活躍とワークライフバランス推進のための取組指針」を昨秋に策定しました。この指針に基づき、政府全体で取組を始めていますが、我々も、現場を知らずして調整を行うことはできません。私が最も心掛けていることは、各府省の人事担当者や現場で働く職員の方々の声に真摯に耳を傾け、国家公務員制度の中核機関として、効果的な人事管理、人材育成がなされるよう知恵を絞ることです。色んな方のお話を聞きながらも自分もいずれ尊敬する先輩方のように活躍し得るよう、男性も女性も輝ける職場作りを目指して、日々奮闘しています。

なぜ総務省か？

早いもので、入省して12年目になりました。私は、幅広い角度から国の政策の根幹を担う総務省というフィールドで、国づくりに携わってみたいと考え、総務省の門を叩きました。これまで、国家公務員の多様な人材の確保、地方分権改革、独立行政法人改革、電子政府の推進、特別職の国家公務員の給与制度等を担当するとともに、米国大学院の行政学修士課程で勉強する機会も頂きました。どの分野も一筋縄では行かないものばかりでしたが、毎日が刺激的で学ぶことがたくさんあり、任務を終えてみると充実感でいっぱいでした。また、尊敬できる先輩や同僚にも恵まれ、とても幸せな日々を過ごしています。

最後に

このパンフレットを読んで少しでも興味を持たれた方は、一度総務省の空気に触れてみませんか？個性溢れる情熱的な先輩方が迎えてくれるはずです。



OECDの会合にて